



第四七回秋田県消防操法大会

大潟村消防団

全国大会出場

Ⅱ 総合優勝は男鹿潟上南秋支部 Ⅱ



題 字
初代会長 松 野 盛 吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中 泉 松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail ask@biscuit.ocn.ne.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二十二年全国統一防火標語
「消したかな」
あなたを守る
合言葉

開 会 式

開会式は、由利本荘市消防団池田義夫副団長の指揮で進められた。前年度の優勝団・支部から優勝旗が返還された後、秋田県堀井啓一副知事

第四七回秋田県消防操法大会は九月二日(木)、由利本荘市岩城の秋田県消防学校放水訓練場で行われ、県内九支部を勝ち抜いてきた小型ポンプ操法の部九分団、ポンプ車操法の部七分団が出場し、訓練の成果を存分に発揮し、消防操法を競った。
(大会の様子は秋田県消防協会HPに掲載しています。)

審査の結果、来る十一月二日、愛知県蒲郡市で開催される第二回全国消防操法大会ポンプ車操法の部には、大潟村消防団第三分団が出場することとなった。同分団には二回目の全国制覇を目指し、大いに頑張ってもらいたい。健闘を祈ります。



限界まで訓練を続けてこられた皆さ

また、秋田県消防協会中泉松之助会長は「本日大会に向け、仲間とともに体力、気力の



は「本大会は、消防団員の技術向上と士気高揚を図り、消防活動の充実強化に資することを目的に開

催している。支部予選を勝ち抜いた七名の皆様には、日頃の訓練の成果を存分に発揮して頂きたい。地域に密着し、現場にいち早く駆けつける消防団は、住民に大きな安心感を与えており、消防団に対する期待はますます大きくなっている。今後とも大きな役割を果たされるようお願いする」と、



引き続き、秋田県市町村総合事務組合佐々木哲男管理者が「消防団の皆様には、日頃から地域防災のり

ーダーとして、あらゆる災害現場において、昼夜を分かたず献身的に活動されておりますことに、心から感謝申し上げる。出場団の皆様が地域の代表として、日頃の鍛錬の成果を遺憾なく発揮されますことと、この大会が成功裏に執り行われますことを祈念する」と祝辞を述べられた。



最後に、前年度総合優勝の男鹿潟上南秋支部を代表して大潟村消防団第三分団の菅野正史班長が私

んの努力に敬意を表する。また、陰になり日向になり支えてこられたご家族の皆様にも感謝申し上げる。本県の消防操法は全国的にも高いレベルにあるので、この大会がどのように展開されるのか大きな関心を持って見守りたい」と出場団員を激励した。

私たちは、各支部代表として出場できたことを、この上もない名誉であり、また、誇りとするものである。この名誉を傷つけることなく、規律に則り正々堂々と競技し、消防精神の真価を発揮することを誓う」と力強く宣誓し、競技が始まった。

競 技



各出場団は、それぞれの支部代表として熱戦を繰り広げたが、ポンプ不調により失格した出場団があったのは残念であった。失格した出場団には来年度の挑戦に期待したい。

ここで、今大会で審査班長を務められた秋田県消防学校鈴木良則教務班長に、より完全な操法の習得に向けての改善又は注意すべき事項について、今大会の審査を通じて感じた事柄を伺ったので、その主なものを紹介する。

① 総合的には、ホースラインがうまくいった出場団が少なかった中で、展張要領、延長要領を再度確



② 指揮、監視の位置不適が見られた。また、指揮位置での基本の姿勢、足のそろえ方が良くなかったのに注意して下さい。

③ ホース展張、結合に不適が多かったので展張要領、ホース結合要領を再確認の上、基本に基づいた訓練に励んで下さい。

④ 吸管伸長時、吸管の置く位置、団員の立ち位置に不適が見られたので注意して下さい。



第 47 回秋田県消防操法大会成績表

【小型ポンプ操法の部】

		タイム	総得点
優 勝	三種町消防団山本支団第 4 分団	41 秒	84.5 点
第 2 位	五城目町消防団第 10 分団	43	79.0
第 3 位	大館市消防団比内第 3 分団	43	76.5
優秀賞	横手市山内消防団第 1 分団	43	76.0
	鹿角市消防団第 5 分団	43	73.0
	秋田市消防団雄和第 1 分団	46	72.5
	仙北市消防団第 4 分団	45	70.5
	東成瀬村消防団第 2 分団	43	68.5
	由利本荘市消防団鳥海支団第 3 分団	(失格)	-



三種町消防団山本支団 第 4 分団

【ポンプ車操法の部】

		タイム		総得点
		第 1 線	第 2 線	
優 勝	大潟村消防団第 3 分団	51 秒	61 秒	170.5 点
第 2 位	小坂町消防団第 4 分団	50	63	158.0
第 3 位	大館市消防団比内第 1 分団	51	64	154.5
優秀賞	三種町消防団琴丘支団第 1 分団	51	63	149.5
	秋田市消防団城東分団	53	63	149.5
	横手市十文字消防団第 3 分団	50	67	149.5
	にかほ市消防団第 6 分団	53	63	142.0

(注) 総得点が同じ場合は、第 1 線・第 2 線の合算タイムの速いものを優位とする。

【総合の部】

優 勝 男鹿潟上南秋支部 (総得点 249.5 点)



大潟村消防団 第 3 分団

第29回 全国消防殉職者慰霊祭

第二十九回全国消防殉職者慰霊祭は九月一六日(木)、東京都港区虎ノ門「日本消防会館ニッショーホール」で、全国からご遺族の方二二五名のほかご来賓、消防関係者など併せて六〇〇名が参列し、厳粛かつ盛大に行われた。

全国の殉職者数は、新たに合祀された一〇名を加え五、四一五名に達したが、うち秋田県では四四名の方が殉職されている。



慰霊祭は、五、四一五柱の御霊を奉納し、黙とうを捧げた後、高木繁光日本消防協会会長が「毎年消防殉職者が発生し、その御霊五、四一五柱に思いをいたすとき、耐え難い深い悲しみを覚えます。また、ご遺族の皆様の中はいかばかりかとお察し申し上げます。当協会では、消防活動の安全管理の徹底や消防装備等の充実強化など、公務災害の発生を少なくするための活動を今後とも実施して参ります。我々消防人一同は、本日の慰霊祭を機に、安心・安全で住みよい社会実現のため邁進することが尊霊のご遺徳に報いる道だと考え、一層の努力を惜しまないことを謹んでお誓い申し上げますとともにご遺族の皆様のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます」と式辞を述べた。

追悼のことばを原口一博総務大臣に続き、遺族を代表して昨年九月防災ヘリにて救助活動中、防災ヘリの墜落により殉職された消防職員(消防司令)の父で岐阜県の後藤学さんが「私の長男は、妻と幼い子ども二人を残し三四年の生涯を閉じた。消防に家庭にそして地域ボランティアにと、何もかもがこれからだという時でさぞかし無念であったと思う。一方、あなた方がふるさとの安全を守るという崇高な消防の使命に殉じたことは、私たちにとって大きな誇りである。天国から温かく見守っていて下さい」と述べられた。

献花は、高木日本消防協会会長、西岡武夫参議院議長などのご来賓、新合祀者のご遺族、日本消防協会の役員に続き各都道府県のご遺族の代表が行った。本県からは中泉松之助秋



田県消防協会会長と遺族代表として鹿角市の花ノ木八重子さん、同じく工藤延子さんが行った。

さらに、昭和五十一年の第一回慰霊祭から行われている木遣り「鎮魂の歌」が、江戸消防記念会の有志によって捧げられ、第二十九回全国消防殉職者慰霊祭は終了した。

■本県から出席したご遺族

殉職者氏名		遺族氏名
花ノ木	正満	花ノ木八重子
三ヶ田喜一郎		三ヶ田 君
工藤	清治	工藤 延子
栗山	富雄	栗山 恵子 雄樹



秋 田 県
消防学校

初任教育第六四期修了式

八五名全員修了 第一線での活躍を期待

秋田県消防学校初任教育第六四期の修了式が九月一七日(金)、同校の屋内訓練場で修了生のご家族やご来賓約二八〇名が出席して行われ、四月に入校した八五名は全員揃って修了式に臨んだ。

六ヶ月間の厳しい訓練を乗り越えて一段と逞しさを増した修了生は、消防人としての使命を新たに、明日からそれぞれの所属消防本部に着任することになる。また、九月一四日(火)には学校長査閲が行われたので併せて紹介する。

修了式

修了式では、先ず斉藤英晴学校長が修了生一人ひとりに修了証書を授与した後、成績優秀者として次の学生を表彰した。

優秀賞 (二名)

由利本荘市消防本部 眞坂 巧 宰
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 佐藤 巧也

努力賞 (八名)

秋田市消防本部 工藤 健正
大館市消防本部 沢田 亘
横手市消防本部 伊藤 勝也
横手市消防本部 高橋 伴幸
横手市消防本部 佐々木 隼也
湖東地区行政一部事務組合消防本部 秋山 慎哉
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 谷口 健太
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 平岡 健太

功労賞 (五名)

湖東地区行政一部事務組合消防本部 総代 秋山 剛
大館市消防本部 副総代 石田 伸一
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 副総代 谷口 慎哉
秋田市消防本部 会計 藤澤 昌幸
由利本荘市消防本部 会計 鈴木 陽

引き続き斉藤学校長は「皆さんが本格的な消防人生を歩み出すに当たり申し上げたいことがある。入校式では『常に向上心を忘れず、自らを鍛え、磨いてほしい』と申し上げたが、それに『信念を貫き、職責を果たしてほしい』という言葉を付け加えたい。いよいよ皆さんは第一線の消防業務に就くことになるが、消防を生涯の仕事として、自ら選択した消防人生に誇りと自信を持って歩んでほしい」と式辞を述べた。

最後に、湖東地区行政一部事務組合消防本部秋山 剛消防士が「私は、地域住民の生命、身体及び財産を火災から保護し、地震等の災害による被害を軽減するほか、困っている人を助けたいという初心と使命感を忘れず、消防業務に尽力していきたい」と力強く答辞を述べた。

学校長査閲

学校長査閲では、多くのご家族や消防関係者が見守る中、学生は訓練礼式、救急・救助訓練、応用訓練、火災総合訓練など八種目の訓練を澁刺とした行動で元気に披露した。

学校長査閲終了後、佐藤秋田県消防長会長は「個々人の動作は勿論、



我々消防に大切なチームワークも大変良く取れており、素晴らしい訓練であった。しかしながら、ここで学んだ知識や技術はまだまだ基本の段階である。この後、諸君はそれぞれの所属消防本部に戻るこ

とになるが、消防長の指示に従い、先輩職員の指導の下、教養訓練に励み、県民が我々消防に寄せる負託に応えていただきたい」と講評した。



第六回 消防団員 意見発表会(三)



高橋 修

・能代市消防団
分団長
・勤続三二年
・自動車整備士

消防団の父親の背中を見て育ったので、父親の退団で当然のように団員になる。
仕事は自動車の整備や検査員で、地域においては交通安全協会の支部の事務局としても一〇年程努め、公民館活動にも積極的に参加している。

「消防団を十倍楽しむ方法」

私どもの分団は、きみまち阪公園より米代川上流域で、川が大きく蛇行して風光明媚な地域に位置し、三班で構成しております。

二ツ井町は米代川が阿仁川、さらに藤琴川と合流しており、「洪水は忘れないうちにやってくる」というのが地元の生の声です。

昭和四七年の水害では、当時札幌在住でした。

日曜日に先輩の弁当を包んでいた新聞の見出しが、秋田の集中豪雨。見ると能代の中川原地区と二ツ井の

中学校の水没写真でした。

平成一九九年の水害では、昭和四七年のように堤防の決壊はありませんでしたが、二ツ井地区では堤防の天端を越える水位でした。堤防上に作られた特殊堤のおかげで大惨事には至りませんでした。後日、水位の跡を見てみると、堤防から川側に手を伸ばすと濁流に手が届くというもので恐ろしい状況でした。

川の水位が上がり堤防の計画高水位を超えると、内水のポンプ排水も堤防保護のため禁止となります。更に下流域では、堤防より漏水もあり、水防工法が行われ、決壊防止に務めました。その後、堤防の改修、補強が行われました。私どもの分団は無堤なので避難誘導や家財の搬出が主な活動です。

やっとテーマの「消防団を十倍楽しむ方法」の番です。

入団はお決まりの父親の退団に伴い、昭和五二年一月でした。幹部や先輩から酒を飲む時一升の酒は余るが二升あれば足りなくなるとい話しや、成功談は眉唾物ですが失敗談ほど参考になりました。

私どもの班では、ほぼ毎年訓練大会後に慰安旅行を行います。金のない時は、廃校になった小学校のグラウンドの草刈をしてバーベキューという時もありました。金に余裕があれ

ば温泉で宴会です。宴もたけなわとなると一番美形のコンパニオンをポンプに見立て、小型ポンプ操法の出番です。集まれ!!の号令に三人が揃うまでやり直します。コンパニオンも面くらいますが、盛り上がります。

正月には、ポンプに御神酒を上げてから近くの太平山に無火災を祈念して登ります。秋田の太平山の分家です。三吉の大神は大男ということ。二尺位のキセル、特大のワラジ、そして六貫目はあると言われる石の杯が奉納されています。その大杯は二升は入るのですが、あまりに重いので一升の酒を入れ、その中にあぶったスルメを入れての骨酒です。

山の名は太平山ですが、飲む酒はたいがい高清水です。やっと持ち上げて飲むわけですが腕がプルプル振るえ、口はひよっとこ状態です。というのが本当のところ。床まで降ろすのがまた大変で、ズボンの大切な付近にこぼすのは当たり前。それで持ち上げたまま隣に回します。三回位は回します。大きくこぼすとブーイングです。疲れてくるとミカンの皮ですくい飲みです。話題は今年の目標。正月なのでつかくぶち上げます。

操法訓練やら嫁とりなどホラまじりの一年の計です。登りは三〇分、下りは酔って転げ落ちるように一〇

分程で下山します。

出初めのは三班で新年会を催します。ある年、自分たちの小繋班の歌を作ろうかと、酔っ払い三人が集まり、即興で小繋消防団班歌を作りその場で披露しました。我々の班には看板屋の照井部長がおり、詰所のふすま4枚に班歌三番まで酔った勢いか二日酔いか不明ですが、墨でなぐり書き!! (當時は二ツ井十分団) 「すごい消防団がいたもんだ。小繋の消防団十分団。正月に太平山で酒を飲む。六貫目を回せ、底まで飲もう、あんたが一番、私は飲んべー。ハーンドン」。

私は昨年団員に提案しました。この詰所のふすま四枚を持って「のど自慢」に出ねが?と…。

全国版で消防団をアピールし、団員の確保に繋がればと思ったのですが、あえなく却下!!

今回の発表を契機に皆様の地域にそれぞれの消防団の歌が生まれ活気が出ることを期待します。ありがとうございます。





菊地 栄一

・ 潟上市消防団
分団長
・ 勤続三十八年
・ 農業

専業農家として地域農業の先駆者として活躍している。農業は勿論、学校教育活動、地域防災活動にも尽力されている。
昨年の第四回秋田県消防操法大会では、分団長を務める飯田川支団第二分団を小型ポンプ操法の部で三位入賞に導く。

「団員の融和」

私が団員になって早三十八年が経過し、人生の三分の二を消防団員として消防防災活動をしております。

私が入団したのは飯田川町消防団で、飯田川町は全県でも一番小さな町で、極端に言うところ、車で走ってれば息を止めたまま通過出来る位の小ささで、団の定員は九〇人でした。平成一七年に天王町、昭和町と合併し、潟上市となり、消防団も合併と同時に統合され、条例定数五〇八名の現在の潟上市消防団となっています。

私が分団長を務める潟上市消防団飯田川支団第二分団は、地域の消防防災活動はもちろん、昨年の全県消防操法大会の小型ポンプ操法の部で

第三位に入賞するぐらい操法の練習も頑張っております。

昨年の全県大会出場は、我が分団にとって二六年振りの出場でした。

合併前の飯田川町消防団は支部大会への出場は分団持ち回りで、五年に一度しか出場機会がありませんでした。町の大会では常に優勝していましたが、この五年に一回という、オリンピックよりも長いローテーションの中で一発勝負の支部大会を制覇することは中々難しく、私が指揮者を勤めた大会では、下馬評は断トツ優勝と言われていた大会でも、練習の時には一度もおこななかったトラブルに見舞われ全県大会には出場出来ませんでした。それから、支部大会出場時に今まで無かった予期せぬトラブルに見舞われ、その都度研究と工夫をこらし、昨年の全県出場まで二六年の歳月がたっていました。

操法は消防団員の基本中の基本ですが、どこの消防団にもあると思いますが、この操法の練習が団員減少の一つの原因になっていると思います。毎日の練習による時間の拘束、家族の犠牲。又、いい大人になってから、叱られるなど、選手になった方なら思い当たるところが多々あると思います。

しかしながら、我が分団は定員の

二〇名には若干不足はあるものの、ほぼ、定員に近い分団員数を維持しております。

何故か？

それは、練習が終わってからのコミュニケーション。簡単に言えば、飲み会にケーションにあると思います。うちの分団員が言っていました、「操法は酒の飲めるクラブ活動」だと。確かに年功序列の厳しい団活動ですが、練習の時は厳しく、その後の反省会は楽しく、和やかに。アメとムチを上手に使い分け、団員にいかんやる気を出させるかが分団幹部、俺の手腕と言うか、口にかかっているわけです。

私は操法を通じてもうひとつ実践している事があります。それは操法合同練習と言う他分団との交流会です。とは言っても操法はダシで、その後の飲み会にケーションがメインデイスシユだと言う事は皆さんもお気付きの事と思います。

分団幹部は幹部会議などで、他分団との交流はあるものの、団員はなかなか無いものです。ましてや合併したばかりでは知らない団員が大半です。この交流会を通して、団員の融和がはかられ、操法技術の向上にも繋がっています。

融和という言葉を書き換えてひけば、「融けて混じり合うこと」又は「と

け込んで調和すること」とあります。これからも我が分団員だけでは無く、本市消防団員と地域住民が「融和」出来るような消防団活動を実践するとともに、後輩団員に伝えていきたいと思ひます。



能登谷 綾子

・ 秋田市消防団
団員
・ 勤続二年
・ 保育士

積極的に活動する彼女は、操法訓練や応急手当普及員講習、住宅用火災警報器の普及啓発活動など様々なイベントに参加している。

女性ならではの視点から地域の安全と安心を守る、入団二年目の団員です。

「操法大会から得たもの」

昨年の一〇月二二日、神奈川県横浜消防訓練センターにおいて、「第一九回全国女性消防操法大会」が開催されました。

この大会は、女性消防隊の消防技術の向上と士気の高揚を図り、地域活動の充実に寄与することを目的に、昭和六〇年から開催されたもので、今年も各都道府県の代表となった女性消防隊四七隊が参加しました。

このような大会に、入団一年目の私が出場するなんて夢にも思いませんでした。

私が小さかった頃、祖父は地元の消防団員でした。両親が共働きであった私は、よく祖父と遊んでいた記憶があります。私にはとても優しい「おじいちゃん」でしたが、いざ火災出動の連絡が入ると、とたんに厳しい顔つきへと変わり、現場へ向かったものでした。そんな祖父を見て育った私は、幼いながら「いつか自分も消防団員になりたい」と思っていたかもしれません。

昨年、偶然にも秋田市女性消防団員募集の文字が目に入りました。私はすぐに「これだ」と感じ応募しました。入団が決定し、辞令を頂いたときに、ふと今は亡き祖父を思い出しました。

入団してすぐに、先輩団員から「今年は操法大会に出場する」と知らされました。何のことも想像もつかなかった私ですが、活動服に着替えさせられ、訓練場で鬼のような指導者に囲まれ、震え上がった乙女の気持ち・・・忘れるもんですか！

ここだけの話ですが、訓練はとても厳しいものでした。一三名の仲間が輪になり、一糸乱れぬ行動が出来るまで何度も何度も繰り返し訓練で

す。まるで運動部の合宿のようでした。しかし、普通の主婦であり、普通の会社員であった私が、仲間と訓練を続けていく中で、大きな変化を感じました。それは「秋田市女性消防団員」としての誇りを持ち始めた時期でもありました。

雨の日も、風の日も、訓練の繰り返しです。身体的にもかなりきつかった時期でしたが、隊員同士で声を掛け合い、励まし合うことで、一三名の隊員の心は一つになったような気がします。

いよいよ大会です。出場隊の構成は、指揮者一名と操水員一番員から四番員までの合計五名です。軽可搬ポンプの吸水操作から始まり、ホース延長、そして放水し標的を落下させるまでの時間と操作や規律の正確さが必要とされるものです。

私たち「秋田市女性消防隊」の実施順は一六番でした。

三、〇〇〇人を越える大観衆の中で、今まで積み重ねてきた訓練の成果を発揮する時がやってきました。

私は、待機線を目の前にした瞬間、緊張で頭の中が真っ白になりました。しかし、会場を見渡すと、見覚えのある顔がたくさん目に飛び込みました。それは、私たちのために応援に駆けつけてきてくれた、団長、そし

て団幹部の方々でした。「がんばれよう」あたたかい声援に安心した私は緊張も徐々に薄れ、今までで一番の操法ができるように集中しました。

「操作」始め

指揮者の号令を皮切りに秋田市女性消防隊の操法が繰り広げられました。私は補充員ですので、訓練時もそうしてきたように、選手たちの動きを、いつもの場所で祈る気持ちで見守りました。

突然のアクシデントが私達を襲い、一七位という結果に終わりました。泣いても笑っても勝負は一回です。どんなことがあろうとも、それが私達のベストだったと思っています。

結果には満足していませんが、後悔もしていません。アクシデントにも臨機応変に対応出来たことが収穫であった・・・そう思います。大きな舞台で、秋田市女性消防隊の団結力を、そして今までで一番の操法をしてきたと自負しています。

昨年、私の中ではチャレンジの年でした。すばらしい仲間に出会い、貴重な経験をさせていただきました。

操法大会から得たもの・・・それは大きな大きな「自信」です。消防団員二年生の私ですが、これからもいろいろなことに挑戦し、家族のため、地域のために頑張ります。

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
消火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 タ カ ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース
トーハツポンプ | シバウラポンプ
各種消防機械器具 | 各種消火器
消防設備保守点検

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

支部情報アラカルト

湯沢市雄勝郡総合防災訓練

Ⅱ 湯沢市雄勝郡支部 Ⅱ

平成二二年八月二五日、羽後町・湯沢雄勝広域消防本部・当支部主催による平成二二年度湯沢市雄勝郡総合防災訓練が関係協力機関一三団体、総勢三百名参加のもと羽後町で開催されました。

震度六強直下型地震発生、直後に



第4想定 (山林火災を想定した)消防団員による放水訓練



第2想定 倒壊家屋からの救助訓練



第6想定 消防防災航空隊による(逃げ遅れ者の)つり上げ救助訓練



第3想定 地元住民によるバケツリレー

火災等の災害が発生したとの想定で訓練が始まり、秋田県立羽後高等学校を会場に学校火災を想定とした生徒による避難、消防署・地元消防団による火災防衛訓練を皮切りに五会場、第六想定まで実施されました。

第三想定では、地元住民・自主防災組織・消防団員を参加主体とした街区火災が想定され、常備消防が駆け付けるまでの初期活動として最も重要なバケツリレーや応急手当・簡易搬送訓練がおこなわれ、参加した皆さんには、住宅密集地における初期活動の重要性について身を持って体験していただきました。

また、最終第六想定では、羽後町役場を会場とした総合訓練を実施。役場庁舎内で発生した火災に伴う職員の避難、来客者の避難誘導、消防署各隊における火災防衛、秋田県消防防災航空隊・消防署救助隊による逃げ遅れ者の救助・救出訓練がおこなわれました。

観閲・閉会式時に多少の雨が降ったものの大事には至らず、

予定通り進行されました。

最後に金子支部長が訓練参加者に対し「備えあれば憂い無しではないが、訓練こそが最大の防衛。災害時に対しての一層の備えを怠らないようお願いしたい。」と呼びかけをしました。

〔情報提供Ⅱ湯沢市雄勝郡支部〕

火災の発生状況

Ⅱ速報値Ⅱ

(秋田県総合防災課調べ)

	平成22年			平成21年			同期比較	
	9月	累計		9月	累計	年計	9月	累計
建物	18	182		22	177	236	- 4	5
林野	0	14		2	46	46	- 2	-32
車両	0	19		5	33	44	- 5	-14
その他	1	42		6	89	97	- 5	-47
合計	19	257		35	345	423	-16	-88
死者数	3	18		3	27	36	0	- 9
負傷者数	3	45		3	34	46	0	11

森田ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

ラビットポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社
株式会社

協立
能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52) 6361
(52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献!

消防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル7F FAX 018 (824) 3651